

II 基本的方向別の評価・課題

1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小の実現に関する目標

ア 指標の状況

目標項目	対象	ベースライン値	現状値	目標値	評価
①健康寿命の延伸（日常生活に制限のない期間の延伸）	男性 女性	71.07年 75.27年	72.07年 75.20年	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	b
②健康格差の縮小（日常生活に制限のない期間の平均の市町村格差の縮小）	—	—	—	市町村格差の縮小	d

策定時のベースライン値と直近の実績値を比較	項目数
a 改善している	
b 変わらない	1
c 悪化している	
d 評価困難	1

- 平成28年（2016年）の健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）は、平成22年（2010年）と比較して男性は1.0年増加したが、女性は0.07年減少した。
- 同期間における平均寿命は、男性で1.35年（79.40年→80.75年）、女性で1.12年（85.91年→87.03年）増加したことから、健康寿命の増加分は平均寿命のそれを上回っていなかった。
- 健康格差の縮小については、市町村の健康寿命の算定が困難であるため、評価困難とした。

○健康寿命と平均寿命

群馬県

男性	健康寿命	平均寿命	日常生活に制限のある期間	女性	健康寿命	平均寿命	日常生活に制限のある期間
平成22年	71.07	79.40	8.33	平成22年	75.27	85.91	10.64
平成25年	71.64	79.85	8.21	平成25年	75.27	86.37	11.10
平成28年	72.07	80.75	8.68	平成28年	75.20	87.03	11.83

全国

男性	健康寿命	平均寿命	日常生活に制限のある期間	女性	健康寿命	平均寿命	日常生活に制限のある期間
平成22年	70.42	79.55	9.13	平成22年	73.62	86.30	12.68
平成25年	71.19	80.21	9.02	平成25年	74.21	86.61	12.40
平成28年	72.14	80.98	8.84	平成28年	74.79	87.14	12.35

○平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加

群馬県	H22からの増加分	男性	女性	全国	H22からの増加分	男性	女性
	健康寿命	+1.00 Λ	-0.07 Λ			健康寿命	+1.72 V
平均寿命	+1.35	+1.12		平均寿命	+1.43	+0.84	

イ 関連した取組

- 健康寿命延伸対策として、健康づくり（生活習慣）の実践事項を県民にわかりやすく伝えるために、「ぐんま元気（GENKI）の5か条」を制定し、「健康寿命の延伸県民運動」として推進している。（平成28年（2016年）9月1日知事宣言）
- 全ての県民に、県民運動の周知及び実践を促すため、民間活力の活用等、健康無関心層も視野に入れた広報活動を実施している。
9月を「元気県ぐんま21推進月間」と定め、県民運動の推進を強化するとともに、平成29年度（2017年度）は、県立県民健康科学大学と連携・協働し、県内4ブロック（中毛、東毛、西毛、北毛）でシンポジウムを開催した。
- 群馬県地域・職域連携推進協議会（県域の協議会）を開催し、地域保健と職域保健の関係者が情報共有を図り、健診の実施状況等の健康課題を解決するために、具体的な連携事業の協議を行っている。
平成27年度（2015年度）には、県域の協議会の構成員である関係機関、団体、企業等の理解と協力を得て、各保健福祉事務所を事務局とする、地区単位の「地区地域・職域連携推進協議会」を設置し、地域の実情に応じた協力体制ができるよう、連携を図っている。
- 市町村の健康増進計画の策定については、健康増進法において努力義務とされているが全市町村が計画を策定するとともに、効果的な推進に向けて、保健福祉事務所を中心に支援を行っている。
平成30年（2018年）3月末の策定率は100%（35市町村策定）である。

ウ 今後の課題

- 健康寿命の全国値と都道府県値は、国民生活基礎調査（3年ごとに実施される大規模調査）の質問票に対する回答をもとに、厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」（研究代表者：辻一郎）において計算されている。これまでに平成25・28年（2013・2016年）の国民生活基礎調査のデータを用い算出した健康寿命の値（全国、各都道府県）が公表されている。

健康寿命を単に延ばすだけでなく、平均寿命の伸び以上に健康寿命を延ばすことが重要となる。

現状では、生活習慣・健診成績・疾病などの要因（元気県ぐんま21（第2次）での取組み課題）のそれぞれが、健康寿命にどの程度の影響を及ぼしているかに関する定量的なデータが乏しい。

今後、これらのデータ収集・整理・分析（調査研究）を行うことにより、健康寿命の延伸・格差の縮小に向けた戦略を構築する必要がある。